

備前市事務事業評価シート

(平成25年度事業)

事業の概要		事業開始年度		昭和46年度～		根拠法令・例規等		土地改良法	
総合計画	大項目	基本構想	04	土台となる政策「安全・安心」		問		担当課(室)	
	中項目	基本計画	05	安全に暮らせるまち		合		職・氏名	
	小項目	施策	18	ため池・治山対策の推進		先		職・氏名	
事務事業名		01		ため池整備事業		電		電話	
						このシート作成に要した時間		2.0 時間	

事業の意図する成果とつながらる成果指標を設定

事業の目的		Plan	
対象(誰・何に対して)	ため池の受益者及び下流域の被災対象者		
目的(何のために)	老朽化したため池を改修し、農業用水の効率的な管理を図るとともに、堤体決壊による下流域への災害防止に資する。		
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	老朽化したため池を改修し、農業用水の効率的な管理を図るとともに、防災事業としても堤体決壊による下流域への災害防止に資するため、県営のため池整備事業を進めていく。		

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の実績		Do	
目的を達成するために実施した事業	細事業名	事業の説明	
	県営ため池整備事業	県が事業主体の老朽化したため池の堤体や取水・排水施設等の改修に対して、事業費を一部負担し、あわせて県、地元との調整を行う。	
	優先度	◎	
	事業費		
	単価		
	総事業費		
	補助金		
	補助率		
	受益者数		
	その他		

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業費等		単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
決算額	直接事業費	千円	16,000		-
	必要人員費	人	0.01	79	-
	事業費	千円	16,079	79	#VALUE!
	国庫支出金	千円			
	受益者負担	千円	900		
財源	千円				
市債	千円				
その他( )	千円				
一般財源	千円	15,179	79	#VALUE!	
受益者負担比率	%	5.6%	-	-	
結果指標名	単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	
結果指標量	説明	整備箇所数	0.4	0.1	-
対前年比	%	100.0%	25.0%	#VALUE!	
活動コスト	円	16,079,000	79,000	-	
単位当たりコスト	円	40,197,500	790,000	#VALUE!	

事業の成果		成果指標名					年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度目標値
ため池整備率	目標値(A)					32.4	32.4	32.4	32.4		
	実績値(B)					32.3	32.4	32.4	到達目標値		
	達成率(B/A)					99.69%	100.00%	100.00%	50		
成果指標設定の考え方・式や説明											
ため池整備率(%)=改修済ため池数÷全ため池数×100(※受益面積2.0ha以上のため池が対象) (H24年度現在 44池/136池、目標H28年度 45池/136池 最終68池)											

事務事業の評価		該当する項目を□から■へ<■へ「コピー」して「貼り付け」してください>					Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	必要性	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い		妥当性評価 A B C D E 高や普や低い 通や高い	
				A			
効率性の評価	コスト	手段	目的達成度	市民参画度	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている		効率性評価 A B C D E 高や普や低い 通や高い
					B		
有効性の評価	目的達成度	市民参画度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		有効性評価 A B C D E 高や普や低い 通や高い		
			A				

事業の目的やその数値目標に留意しながら有効性を評価

進行年度(H26年度)の改革改善内容		状況	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		状況	○					
説明		H25年度から引き続き、ため池一斉点検と耐震性調査を行い、その結果から改修が必要な池を、費用対効果や緊急性から検討を行い、抽出していく。						

総合評価		総合評価				
未改修のため池が多く残っており、今後も本事業による改修を推進していく必要があるが、高齢化等による農業者の減少に伴いため池の受益者が減少する一方、非農家が増えるなど情勢の変化により、本事業の目的もかんがい施設としてだけでなく、防災面での比重が高くなりつつある。こうした状況の変化により、池の管理や分担金確保など地元の協力体制がとりにくくなってきていることや、盛土材料の確保が困難になりつつあり、工事費が増大する傾向があることなどから、地元の意見も反映しつつ、コスト縮減が図れる全面改修以外の選択肢も検討していかなければならない。		A B C D E 高や普や低い 通や高い	A			

平成27年度の方向性・取組目標		方向性	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		方向性	○					
取組目標		平成25、26年度において、抽出されたため池の中で、改修可能なため池について地元関係者に対して負担金や用地協力等の説明・調整を行い、施工可能となれば県に対して要望を行っていく。						

Action